

エゲ古墳主体部出土遺物一括

【平成18年4月24日 市指定 有形文化財】

エゲ古墳は「方墳」という四角形の古墳です。古墳の中心には割竹形木棺という木製の棺が埋葬されており、その中から銅鏡や鉄剣、勾玉などの副葬品が、埋葬された当時のままの姿で発見されました。これほどの副葬品が現在まで盗掘されずに完全な状態で見つかることはめずらしく、当時の埋葬の様子を知る上で貴重な資料となりました。古墳がつくられた時期は、安徳大塚古墳や妙法寺2号墳とほぼ同じ4世紀後半と考えられています。



▲四獣形鏡



▲勾玉とガラス小玉



▲鉄斧

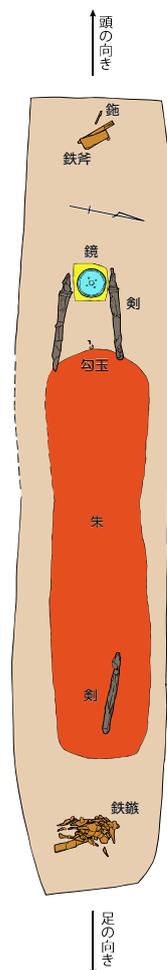


▲鉄剣



▲鉄鏃

棺の中では頭の位置と思われる場所に銅鏡、鉄剣、勾玉が、頭の上や足元には鉄製の武器や工具が納められていました。鏡の下には木片が残っており、銅鏡は丁寧に木箱に入れられていたと思われます。



▲副葬品が見つかった状況